

モメンヅルの思い出

札幌市 船迫 吉江

2009年、日本植物画倶楽部の顧問である大場秀章先生が植物分類表を出版されました。同時に日本植物画倶楽部では、「日本の固有植物図譜」の出版を企画始動したところでした。企画委員会が中心になり、詳細なルールを決めて全国の会員に働きかけ、様々な調整をされた後、始まりました。が、それは前途多難を極めることでもありました。希望の多い植物、少ない植物など様々なことがありましたが、何とか希望の植物の調整がついて、私は北海道に自生するマメ科モメンヅル、オトギリソウ科のサマニオトギリ、オシマオトギリソウの3種を担当することになりました。まずは、書籍で調べ、現地取材をするために、北大総合博物館植物ボランティアをしていたモメンヅルの研究者の松井先生にご協力をお願いしました。快くお引き受けくださり、限られた時間の中で何とか作画することが出来ました。

全道的にありそうなデータもありますが、現状ではどこにでもある植物ではないとのことで、私の記憶では、2010年に日高の穂別町八幡隧道に向かいました。花が終わりかけていましたがやっと！間に合いました。柳に絡んだ根から散らばった力強いモメンヅルが多数あり、夢中でスケッチをしたことを思い出します。特に花期を終えた後の蒴果の様子は小さな花からは想像できない程たくましい形で驚きました。普通では豆の果実は下向きに垂れ下がることが多いのですが、モメンヅルの蒴果はなんと天

を仰ぎ空に向かって直立し、少し湾曲した形になります。その姿は力強く特徴的で見事でした。そして、蒴果は時の経過と共に濃紅紫色に変化し益々魅力的になりました。

やっと！なんとかできた画でしたが、2011年茨城県自然博物館の企画展「日本の固有種」で原画と共に新聞紙大の大きなパネルのモメンヅルの展示もされました。また、2012年日本植物画倶楽部の北海道巡回展を企画し、北海道の文化財団のご支援を受けることが出来たことや、北海道内の植物画倶楽部の多くの方々のご協力を得て、この年の夏、札幌市民ギャラリーで展示する機会を得ました。また、展覧会のご案内はがきにもモメンヅルが使われましたことは私にとって意義深い出来事でした。

モメンヅルの作画に当たり参考にした資料は次のとおりです。いずれも松井洋著で、穂別町八幡のマメ科ゲンゲ属 (*Astragalus*) について、北方山草 12 (1994)、天塩川流域の河辺植物、北国研究集録 1 (1997)、北海道に自生するカラフトモメンヅルとモメンヅルの調査報告、菅多尼訶 (ボタニカ) 12 (1996)。

作画にあたって参考にした標本は主に次の3点です。

- 1912年7月8日 札幌豊平川 採集者
H. Yanagisawa 花茎の全景
- 1993年7月11日 日高穂別町八幡隧道
上 採集者 松井洋 根を参考
- 1994年7月9日 名寄市名寄大橋左岸
採集者 松井洋 花茎の全景